

平成30年度 保護者懇談会 報告	
日 時	【1回目】平成30年6月30日(土) 午前10時から11時40分まで 【2回目】平成30年7月24日(火) 午後 6時から7時20分まで
場 所	十王中学校
出席人数	(1) 保護者等 【1回目】15人 【2回目】5人 計20人 (2) 事務局 【1回目】教育長 【2回目】教育部長 学務課長、学務課課長、適正配置推進室職員
内 容	(1) あいさつ (2) 学校適正配置基本方針の概要について (3) 児童生徒数の将来推計について ()は学級数 (10年後) 楡形小 618人(18) 山部小 20人(3) 十王中 325人(9) (20年後) 楡形小 466人(14) 山部小 15人(3) 十王中 245人(9) (4) 意見交換
【1回目 (4) 意見交換】	
<p>(質問)</p> <p>幼稚園ごとの教育方針が異なっているのか、幼稚園での過ごし方の違いがトラブルの原因になっていないか心配。すぐに手が出てしまう子がいて、おとなしい子どもがいじめられているのではないかと。先生も強く咎められない。改善方法が分からない。</p> <p>(教育長)</p> <p>茨城県では就学前教育に力を入れていて、市でも保幼小連携に取り組んでおり、双方で情報のやり取りをしている。幼稚園・保育園ではアプローチカリキュラム、小学校ではスタートカリキュラムとして、スムーズに接続できるように取り組んでいる。</p> <p>いずれは慣れていくが、その間に苦しむのはかわいそう。心配なことは、どんどん、先生に伝えてほしい。</p> <p>(事務局)</p> <p>学校でも幼稚園でも、いじめや不登校は最も重要な問題として認識している。</p> <p>入学する前の様子を十分知った上で、関わるのが大切。ぜひ、相談しながら解決していきたい。</p> <p>(意見)</p> <p>いじめとまではいかないが、軽いいたずらはある。先生には言っていない。子ども同士で解決してほしいと思っているが、子どもには親には伝えるように言っている。クラスの人数が多く(36人)、先生の目が届いていないと感じている。人数が少なければ、先生も気付けるのではないかと。</p> <p>(意見)</p> <p>学年が上がり、転校などでクラスが減ってしまった。1クラス38人は多くて、子どもも先生も大変である。30人弱にして、ゆったり見てもらえれば、夏季講習(学びの広場)などもしなくていいのではないかと。もっと学級の人数を少なくしてほしい。</p>	

(意見)

周りからは、(学級の人数が多くて) 窮屈だと聞いている。ちょっとしたいじめもあり、先生に相談しても親身になって聞いてもらえなかったと聞いた。先生の対応に不満を感じる。人数を減らしてクラスを増やした方がよい。

豊浦中はクラスが少ないと聞いたので、豊浦中に少し回して、山側と海側にしてはどうか。

小学校のトイレを洋式化してほしい。子どもに和式の経験がないので練習中。清潔なトイレにしてほしい。

(意見)

小学校はクラスに人が多く、(子どもが先生の) 話を聞けなくなってしまう。先生を増やしてほしい。

(意見)

授業参観に行っても人が多く、子どもたちも先生の話聞いていないのではないかと思う。

(意見)

児童生徒数の推計のグラフを見て、悲観的になってしまう。これほど子どもが減ってしまうと、学校の再編は仕方ないと思うが、教育の質は上げてほしい。

今後は、外国人が増えるのではないか。学校にも外国の子どもたちが入って来るようになると思うので配慮してほしい。

プログラミング教育が始まるが、小学校の先生は授業ができるのか。

(事務局)

学級の人数が多いというご意見が多かったので、学級の人数の話をさせてほしい。

学級の人数には基準がある。現行の茨城県の基準は、小学1, 2年生が35人、小学3年生から中学3年生までが40人となっている。41人になると2学級になり、20人と21人の学級になる。学級の人数には幅がある。例えば、20人を1学級の基準とした場合、21人になると10人と11人の学級になり、少な過ぎる。

リーフレットの中で小学校は2学級、中学校は3学級としているが、これには教員の配置も影響している。中学校では、1学年2学級だと学校全体で英語の先生は1人、3学級では2人の配置となる。ルールとして決まっている。1人で1年から3年までの全学級の授業をすることになる。2人であれば、その分、きめ細かく見ることができる。

小学校でも、学年で2学級あれば相談しながら進めることができるし、2学級を合わせて習熟度別の授業をすることもできる。いじめがあった場合にも、クラス替えができれば環境を変えることができる。

そのような議論があって、基本方針ができあがった。

(教育長)

特別支援学級在籍の子どもが通常の学級に戻った場合に、人数が多くなってしまいう学級には、市でも少人数指導教員などの非常勤講師を配置している。

今回のように、お話を伺っていく中で、今いる子どもたちの環境の向上についても、できることは取り組んでいきたい。

プログラミング教育ではプロの力を借りる必要もあると思う。モデル校を選定して研究している。

(意見)

山部小は人数が少なく、5年生は4人しかいない。

少ないからこそその良い面があり、一人ひとり体験ができることが多い。先生が目が届くのでいじめはない。体力、学力も付くと思う。修学旅行も小回りが利き、通常は行けないような所にも行くことができる。

一方で、ともだちが休んだりすると、1人で登校しなければならず、県道10号は通勤道路になっているので交通量も多く危ない。また、クラス替えがないので社会性は身に付いていない。中学校で経験することが初めてのことばかりで、刺激を受けて帰ってくる。小さいうちから社会性が付くような適正な学級数が望ましいと思う。中学生の子は、友達がたくさんできてうれしいと言っている。

小学校の縦割り活動では、例えば、ドッジボールなどは高学年がボールを支配してしまうので、低学年はボールに触れない。同じ学年で同じレベルで球技ができればいいなと思っていた。運動会では子どもたちの競技はすぐに終わってしまい、大人の競技が多く疲れてしまう。人数が少ないので結束力は強い。

山部小に誘っても、送迎が負担と言われてしまうので、スクールバスを出してもらえれば、楡形小が多すぎる問題も解決できるのではないかと。

伊師浜の子どもたちは、十王中より豊浦中の方が近い。学区を見直してもいいのではないかと。

中学校に自転車通学しているが、車道も歩道も草刈りをしていないので危ない。スクールバスがあればいい。

(意見)

山部小に行こうと思ったが、送迎の問題で断念した。

昨年度、ほぼ1年間授業が進まなかった。3年生の頃からなのに学校が対応できておらず、担任に訴えても「保護者と話している」というだけで改善できない。1人の子に他の子どもたちが巻き込まれてかわいそうだ。学級の人数が多いことも、対応できていないことの要因だと思う。保護者はどこに話を持っていけばいいのか分からない。

(意見)

10年後に、子どもたちは小中学生。スクールバスがあれば人数の調整もしやすく、ある程度の規模の学校になるのではないかと。今すぐスクールバスの導入が難しければ、学童保育を充実してもらえれば、朝だけバスで登校し、帰りは迎えに行けるので、共働きの人も通わせられる。山部小の学童保育を充実してもらえれば、山部小に行く人が増えるのではないかと。

(意見)

すぐ身近なことだと感じた。

現在年少で年齢的なこともあるが、20人のクラスでも落ち着かないのに、小学校で倍の人数になったら、もっと落ち着かないし、先生に不安なことも話せないのではないかと感じた。クラスの人数は20～30人がよい。

山部小に行きたくても、遠くて徒歩通学は難しい。スクールバスがあれば遠くからでも山部小に通える子がいるのではないかと。

(意見)

学区にとらわれ過ぎているのではないかと。スクールバスがあれば、少ない小学校に通わせることも可能だと思う。中学校区の見直しがあれば、人数が分散されるのではないかと。

住んでいる所は固まっているので、そこを区切れば小学校の人数がならされるのではないか。

学年1学級の先生は不安を持っていると思う。相談相手がいないので、「これでいいのか」と思いながら取り組んでいるのではないか。ベテランとペアを組んでやれるといい。

(意見)

今までの話を聞いていると、スクールバスがポイントかなと思う。中学校についてもスクールバスを検討してほしい。自転車通学でも、雨だと送っていくようになる。

いじめについては、学校内で情報を共有してほしい。保幼小の連携で、公立の情報は市で把握できるが、私立園での情報は、市ではなく県に行く。県から市には届かない。私立園でのトラブルを、市は把握できないので、対策が取れない。

(意見)

日立市に来て数年なので、よく分からない。現状が分かったが、発言は難しい。

(意見)

クラスの人数が多いと、一人ひとりを把握できない。新任の先生などは、20人を越えたら何が起きているか分からない状況なのではないか。ベテランの経験を生かしてほしい。

統廃合も仕方ないが、通学の安全をよく考えて進めてほしい。

(事務局)

スクールバスの要望が多かった。

学区の再編によって、通学距離が延び、危険が増すのではないかとこの心配は理解できる。必要があれば、保護者の皆さんと協議しながら検討していく必要があると考えている。

一方で、歩かないことで体力不足が懸念されているので、そのような課題も踏まえて、保護者の皆さんと協議していきたい。

学校間のバランスをとるためにスクールバスを導入する、学区の再編といったご意見があった。検討委員会にも伝えながら検討していきたい。

いじめについてのご意見がいくつかあった。

担任が抱え込まずにチームで対応することを勧めている。

先ほどの個別のお話は、この後、お話を伺いたい。

(教育長)

担任があきらめているという話は、私たちもショックを受けた。学校とともに考えていきたいので、教育委員会を活用してほしい。

以上

【2回目 (4) 意見交換】

(質問・意見)

高原小が廃校になったとき、楡形小に通うことになった。保護者の気持ちもあったのだろうが、山部小に行かせることはできなかったのか。

再編に当たって、少ない学校に行ってもらおうとか、進学する学校を市や学校から勧めることはできないだろうか。自分の子どもは当然のように十王中に進学したが、田尻小学校では、滑川中、日高中のどちらに行くかアンケートを取ると聞いた。十王中と豊浦中のどちらに行くか、などのアンケートに学校紹介などを付けてもらえば、選べるのではないか。

（事務局）

日立市では、学区制をとっている。住んでいる所で進学する学校が決まっている。学校を自由に選べる訳ではない。

高原小の統合先が山部小か楡形小かということについては、保護者の意見が優先されたと聞いている。山部小が近かったが、山部小と統合しても学校の規模としては、それほど変わらない。友達がたくさん作れる所が良いとのことで楡形小になったと聞いている。

田尻小の件だが、学区が決まっているので、田尻小の子どもたちが滑川中や日高中を選べる訳ではない。市立中学校進学予定者の把握のために、市立小学校に通う6年生の全員に調査している。最近では、私立や国立、県立に進学する子どもたちも増えている。

（意見）

再編の動きがあるということは、現行制度だけでなく抜本的に改める用意があるということかと思う。学区外の学校を選択できる制度を選択（創設）することもなくはないと思う。

自分の教育方針としては、（自分の子どもには）山部小が合っていると思うが、どちらにするかと言ったら楡形小を選ぶ。理由は、友人関係であり、子どもが友達と離れてしまうことが一番のデメリット。少人数の学校に通わせた場合のデメリットもある。運動会をしても、自分の子どもがどこにいるか分からないような、大きすぎる楡形小は避けたいという思いはある。

まとまった人数での異動であれば、山部小を選択することもできると思う。制度上のメリットがないと集団での異動はないだろう。そのような検討をしていただければいいと思う。

（事務局）

学級の維持を考えれば、学年で10人単位の異動が必要になるが、どのようなことがあれば可能と思うか。

（意見）

バスでの送迎と、そちらに行った方がお得だと感じるようなものがあれば検討したいと思う。

（意見）

活気のある懇談会を期待していた。案内が封書で届いた重みがあり参加した。PTAや幼稚園・保育園などに、もっと声掛けがあってもよかったのではないか。懇談会の意味が曖昧になってしまった。十王中学校で考えれば、20年後も規模が確保されている地区である。参加人数が多ければ、地域ごとの話し合いができたのではないか。

県北を活気づかせて、人を増やしていく対策が一番の課題だと思う。学校に魅力を持たせてほしい。

(事務局)

学校の魅力というお話だったが、どのようなことが学校の魅力になるか。

(意見)

何を魅力に感じるかは人それぞれだと思う。

子どもの生活は、宿題が終わったら YouTube を見て終わり。宿題も多いが、「また YouTube か」と思う。やりたいことができる自由な環境があればいい。家庭、学校、地域の機関がもっと連携して、「こんなことがしたい」と子どもに意欲が出るような働きかけができないか。

(教育部長)

自分は必要とされていると感じられるような教育を目指している。

行政は、学校教育の計画を作っていて、その中に「いいところ発見、夢づくり」というスローガンを掲げている。自分や友達、先生のいいところ、悪いところをそのまま丸ごと受け入れて、生活していこうということを合言葉にしている。

キャリア教育といっているが、職業少年団や英語活動などに取り組んでいる。

行政一般にいえるが、教育委員会の弱点は情報発信力。課題として取り組んでいる。

(事務局)

この地区は、地域に根差した教育がなされていると感じている。地域の職業体験をしたり、北限みかんについて調べたり地域の人材や教材を活用している。

(質問)

中里小・中学校には送迎があると聞いている。状況を教えてほしい。また、小中一貫教育に取り組む考えはないのか。

学童保育の時間を延長することはできないか。民間の児童クラブは7時まで見てくれるが、遠くて利用しにくい。

(事務局)

中里小・中学校は、小規模特認校制度というものを利用して、市内の全域から児童生徒を集めている。市街から離れていること、子どもたちが極端に少なくなっていることなどが理由。日立駅からスクールバスを出している。

特色のある学校づくりをということで、コミュニケーション科を置いて、英語に特化した取り組みなど特別なプログラムを組んでいる。

中里小・中学校では小中一貫教育を行っている。特色ある学校づくりの一環として行い、小規模校のデメリット解消の目的もある。

市内では、全小中学校で小中連携教育を行っており、9年間の児童生徒の育ちの中で、より良い学びを提供する目的で教育活動を行っている。

学校を再編していく中で、その連携をさらに強化していきたいという思いもあり、可能な学校があれば小中一貫教育も積極的に取り組んでいきたい、市内の学校にも小中一貫教育の良い所を取り入れていきたいと考えている。

学童保育については、7時くらいまで延長してほしいという声を聞いたことがあるか伺いたい。

(意見)

7時を過ぎてしまう人もいと聞いている。

(教育部長)

学童保育の保育時間延長は、福祉サイドでも課題として捉えている。保育園並みにしたいが指導者の確保などが課題である。

また、仕事としてみた場合に、労働時間が短いので若い人は確保しにくい。子育てが終わった年代の人たちは、家庭のこともやらなければならない。人材の確保は課題として感じている。

(事務局)

学校の再編も、将来の小中一貫教育導入も念頭に置きながら検討していこうとしている。小中一貫教育については、リーフレットの中でも、「学校の新たな形づくり」として考慮することになっている。

(意見)

学区制の廃止を提案したい。

中学校で高校説明会がある。学校の特色や教育方針を説明して、うちの学校に来てくださいとPRしている。学校を選べるようにして、小学校で、中学校の先生がPRしてもいいのではないかと。親子で考えられるように。部活や勉強に特化してもいいのではないかと。〇〇部なら△△高校の推薦が受けられるから、〇〇部の強い中学に行こうとか。中学校は3年間しかないから、高校受験を見据えて過ごすことができる。高校受験はなくならないから、塾に行かなくても進学校に楽に入れるレベルの学力を付けるような、勉強に特化した公立校があってもいい。

学童保育のお弁当について。夏休みや冬休みのあいだ、公立の児童クラブはお弁当持参となる。民間のところは有料の給食を提供しているところもある。残業しないで帰る後ろめたさもあるので、預かり時間の延長も大事だが、有料でも給食にしてもらえれば、働く母親は楽になる。

(教育部長)

教育委員会としては思い付かない発想でありがたい。皆さんが望んでいるのであれば、実現可能性については分からないが、検討する余地はあると思う。

給食という安全性がすぐ思い浮かぶが、クリアする課題として捉えれば検討する余地はある。

学区制の廃止は、学校の在り方なども考えていかななくてはならない。義務教育は均質でなければならないと思うが、今のようにお感じになる意見があるなら、充実させていかなければならないだろうと思う。

(事務局)

学区の廃止は、全国では取り組んでいるところもあり、メリット・デメリットがある。学校をよりよくする形の一つとしてのご提案だと思う。そのような学校に通う子どもたちも、目的がはっきりする。

反面、多くの市町村で取り組んでいない理由を考えると、一つには安全性があるだろう。

(意見・質問)

作業療法士をしている。不登校の子どもをケアした経験がある。中里中学校に行くこと

ができた。学校の特性上、不登校の子が通いやすい環境なのかなと思った。スクールバスが朝1便しかないということだったが、増やしてもらえれば不登校の子どもも通いやすい。中里小・中学校が不登校の子どもたちが通える学校としてあってもいいと思った。

不登校の子どもたちが作業療法に通った時間を、授業の出席としてカウントしてもらうことはできないか。作業療法士協会に問い合わせたが、事例が無いとのことだった。制度を調べたら、中学校では校長の裁量で可能だと分かった。実際には、その相談をする前に（担当していた子が）学校に通えるようになったので確認していないが、もし、相談していればどうだったのか。

（事務局）

日立市では、不登校の子どもたちの通う場所としてチャレンジクラブがあり、出席扱いとなる。

事例が無いとのことなので、ここでお答えはできない。作業療法に通うことを出席として認めるかどうかは、登校につながるかどうかということもあると思うので、当該校の校長に相談してみしてほしい。

以上

※ 始めと終わりのあいさつと資料の説明は、記録を省略します。